



中学校社会科資料

こんな
実践

あんな
実践

授業にピタッ!とデジタル教科書

Vol.2

地理

- ①世界の諸地域…p.02
- ②日本の諸地域…p.04

歴史

- ①近世の学習 …p.06
- ②現代の学習 …p.08

公民

- ①国際社会 …p.10
- ②国際社会 …p.12

中学社会サイト掲載資料のご紹介…p.14

◆**単元名**：第2編 世界のさまざまな地域 第2章 世界の諸地域 6節 オセアニア州

「② 特色ある産業と国の成り立ち」(教科書 pp.122-123)

◆**本時の目標**：

イギリスからオーストラリアやニュージーランドへ渡った移民の歴史や現代における国内の様子について写真から読み取る。資料からオーストラリアの産業の特徴を読み取り、そのような産業構造となった背景について地理的な視点から考察する。

《本時の展開例》

	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材
導入 (10分)	【問】この写真はオーストラリアで撮影されたものである。この写真から、オーストラリアがどのような成り立ちをもつ国か考えてみよう。 ●旧宗主国であるイギリスとの位置関係を確認する。	・前時の学習内容を踏まえ、【問】について考察させる。 ・どの国と関連があるかは、駅名や国旗から推測させる。 ・オーストラリアや隣国のニュージーランドでは、かつてイギリスからの入植があったことを解説する。 ・オーストラリアがイギリスからみて遠隔地であり、流刑地とされてきた歴史や、もともと先住民が生活していた土地であることを解説する。	・p.122・2の写真を部分拡大(2・3)し、スクリーンに投影して読み取らせる。 ・オーストラリアの国旗を投影する。 ・オーストラリアを中心とする正距方位図法の地図をスクリーンに投影する。 ・p.123・4から牧牛と等雨量線を表示(1)し、その分布を確認する。 ・p.123・6をスクリーンに投影する。
展開 (30分)	【問】オーギービーフとは何だろうか？ 【問】オーストラリアは牛肉の他に外国に何を輸出しているのだろうか？ ●オーストラリア、ニュージーランドの輸出品目とその変化を確認する。 ●オーストラリアの農業地域と、鉱産資源の産地を確認する。 【問】他の「先進国」と呼ばれる国々は主に何を輸出しているのだろうか？	・生徒に身近な話題から、本時の課題にアプローチする。 ・主な輸出品目の変化だけでなく、輸出額の増加から「経済水準が比較的高い国(先進国)」であることに気づかせる。 ・気候と農畜産物の生産地域には関連性があることを、資料から読み取らせる。 ・先進国の多くは、工業製品が輸出品目の上位に入ることを確認する。	・p.122・3をスクリーンに投影する。 ・p.123・4と5をスクリーンに投影する。 ・p.122の動画(NHK for School)を再生する。 ・先進国の主な輸出品目に関する資料をスクリーンに示す。
まとめ (10分)	●オーストラリアの産業の特徴について、地理的な視点から考察する。 【問】なぜオーストラリアは工業製品を輸出せずに、鉱産資源を主に輸出しているのだろうか？	・鉱産資源の産地、乾燥地域の広がり、工業都市の位置に着目させ、【問】について考察させる。 ・【問】について解説する。	・p.123・4と5をスクリーンに投影する。

◆指導にあたって：

○日本はオーストラリアから、石炭や鉄鉱石をはじめとした鉱産資源のほか、小麦や肉類などの食品も輸入している。国の知名度の高さに反し、そうした日本やアジア諸国との関係について具体的に知らない生徒も多い。単元全体を通して、生徒にとって身近な話題からオセアニアと日本、そしてアジアとの関係の深さに気づかせ、関心を高めるよう心掛けたい。

《生徒に身近な話題の例》

「日本と同じ！オーストラリアの車は左側通行・右ハンドル。なぜだろう？」

「暖かくて気持ちいい！メリノウールってどこからきたの？」

★凡例表示機能：
凡例を限定することで、牧牛が行われている地域と降水量の関係に注目させることができる(①)。

◆デジタル教科書活用のねらい：

○主題図の凡例を選択して表示できる機能を活用したい。表示する情報を限定することで、異なる凡例の関連性に気づくことができる(ここでは、牧牛の分布と等雨量線のみを表示させる〔①〕)。

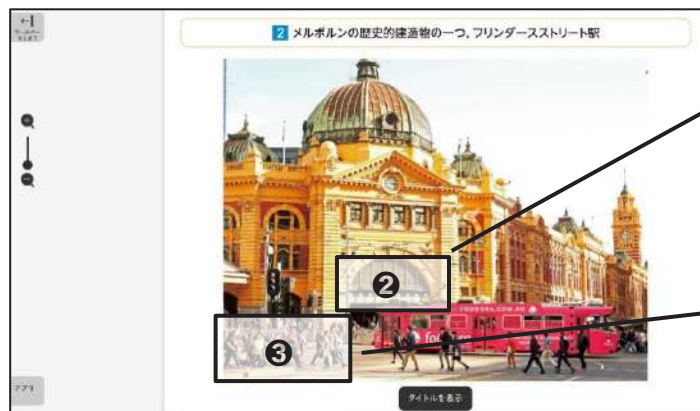
4 オーストラリアの降水量と農業地域



①

○地理においては、当該地域についてイメージをもてるようになることが重要である。デジタル教科書内のNHK for Schoolの動画(p.122)を活用することで、生徒がよりイメージをもちやすくなり、さらに動画から生徒が新たな気づきや疑問をもつことで、学習意欲の向上も期待できる。

○写真(p.122)の拡大機能を活用することで、紙の教科書では読み取れなかった事柄に気づくことができ、より深い学びにつなげることができる(②・③参照)。



★写真の拡大機能：左のスクロールバーで写真を部分拡大させることで、新たな気づきが期待できる。

②「駅名が英語で表示されている。」、「駅名の下に時計があるよ。」

③「ヨーロッパ系の人だけでなく、アジア系の人も生活している。」…

◆授業でさらに活用するポイント：

○まとめの【問】については、時間に余裕があればグループごとに考えさせたい。また、オーストラリア国内の状況だけでなく、アジアでの資源の需要の高まりなど、他地域の状況についても触れるとよい。

○鉱産資源の有限性を踏まえて、今後オーストラリアがどのように産業を成り立たせていくべきか、産業のあり方を考え、その結果日本にはどのような影響があるかを考察することで、学習をより深めることができる。

◆**単元名**：第3編 日本のさまざまな地域 第2章 日本の特色と地域区分

「⑨ 輸入に頼る資源・エネルギー」(教科書 pp.166-167)

◆**本時の目標**：

日本の資源・エネルギー事情について世界と比較しながら理解する。資源・エネルギーについて世界規模、国内規模でどのような課題や問題が生じているのかを説明できる。

《本時の展開例》

	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材
導入 (10分)	【問】皆さんの利用している電気はどのようにして生み出されているのだろうか？	・主な発電方法である水力、火力、原子力発電についてしくみを端的に説明する。	・p.167・ <u>6</u> の中の「発電方式」と「しくみ」の部分のみ(2)、ズーム機能を用いてスクリーンに映す。 (あるいは、p.167の <u>5</u> ・ <u>6</u> を使い、立地場所と分布を比較する(3)。)
展開 (30分)	●日本と世界の主な国の発電量の内訳を確認する。 ●日本の主な発電所の分布を確認する。 【問】なぜ火力発電所は臨海部に立地しているのだろうか？ ●原油、石炭、鉄鉱石の輸入相手先を確認する。 【問】資源を輸入に依存することでどのような問題が生じるのだろうか？	・資源分布や自然環境等に応じて、各国の主な発電方法が特色あるものになっていることを解説する。 ・各発電所の立地場所の傾向を読み取る。 ・鉱産資源など、地下資源に乏しい日本は火力発電に利用する化石燃料を輸入に依存するため、運び込みやすい臨海部に立地することを解説する。 ・資源ごとに表示する。特に原油は中東からの輸入依存度が高いことに気づかせる。 ・中東からの輸入依存度が高い原油は、石油危機など、海外情勢の影響を受けてきたことを解説する。	・p.167・<u>4</u>をスクリーンに映す。 ・p.167・<u>5</u>「日本の発電量の内訳」をスクリーンに映す。 ・p.167・<u>5</u>「日本の主な発電所の分布」をスクリーンに映す。 ・p.167・<u>5</u>の「日本の主な発電所の分布」から火力発電所のみを表示(1)し、スクリーンに映す。 ・火力発電所の写真をスクリーンに映す。 ・p.166・<u>2</u>をスクリーンに映す。 ・p.167の NHK for School の動画「転機をむかえる日本のエネルギー」を1分10秒まで再生する。
まとめ (10分)	【問】資源・エネルギーに関する課題は自給率の低さだけなのだろうか？ ●バイオマスや再生可能エネルギーを利用した発電についての動きや課題について確認する。	・国内のエネルギー供給だけでなく、資源の有限性、環境保全などの観点からも今後のエネルギー問題についてグループで考えさせる。 ・クラスで共有する。	・p.167の NHK for School の動画「転機をむかえる日本のエネルギー」の続きを再生する。

◆指導にあたって：

○本時では、電力供給という観点から、日本の資源・エネルギー事情について授業を展開していく。日本が資源のほとんどを輸入に依存していることを確認させるとともに、資源・エネルギーに関して国内、また世界でどのような課題が生じているのかを捉えさせたい。さらに、そうした課題が自分たちの生活に直結する問題であることを生徒たちに意識させ、持続可能な社会の実現に向けて各々が貢献しようとする姿勢を身につけることを目指す。

◆デジタル教科書活用のねらい：

- 主題図の凡例を選択して表示できる機能を活用したい。表示する情報を限定することで、事象の傾向や関連性がより強調されて捉えやすくなる(①)。
- デジタル教科書の「関連」機能を使用することで、既習事項の復習が容易にでき、生徒に学習内容の“つながり”を意識させることができる。
- 教科書に掲載されている資料は、選択すると基本的に全体が拡大表示されるが、授業を展開するうえで生徒に提示したくない情報も含まれる場合がある。その場合は、「紙面」画面からのズーム機能を使用して、トリミングして表示することで問題を解消できる(②)。

生徒の思考を妨げないためにも適切な資料の活用を心掛けたい。

6 主発電方式の特徴

発電方式	しくみ	発電所の立地場所
水力	ダムから水を落とし、た力でタービンを回し、発電する。	大量の水が必要となるため、ダムをつくりやすい河川上流の山間部。
火力	石炭・石油・天然ガスなどを燃やした熱を利用して蒸気を発生させ、蒸気でタービンを回し、発電する。	燃料は専用の船で海外から輸送されるため、運ば込みに都合がよく、電力需要が高い大都市に近い臨海地域。
原子力	ウランを燃料とし、必要であることや、大核分裂で発生する熱を利用して蒸気を発生させ、蒸気でタービンを回し、発電する。	燃料を運び入れる港が必要であることや、大核分裂で発生する熱の冷却水が必要とするため、水を得やすい沿岸部。 (日本では法律などにより、立地場所が定められています)

②

③

★凡例表示機能：火力発電所のみ表示し、分布の特色をつかみやすくする(①)。

★めくり紙機能：資料本体をクリックすると、付箋のついた画面が表示される(③)。

- ★分布図から種類を絞って確認するか、テキストで確認してから分布図と照らし合わせるか？
- ② 発電方式のしくみをまず提示し、発電所立地については資料5から生徒に読み取らせたい。
- ③ 「発電所の立地場所」のめくり紙機能を使い、資料5と照らし合わせながら確認していきたい。

◆授業でさらに活用するポイント：

- 日本周辺に存在するとされるメタンハイドレート(p.166 側注②)などの地下資源利用の可能性など、インターネットも併用して最新の動向を調べる学習を取り入れることで、生徒の興味・関心を高め、主体的な学習につなげることができる。

◆**単元名**：第4章 近世の日本と世界

「学習を始めよう～近世の暮らしと社会～」(教科書 pp.95-97)

◆**本時の目標**：

資料『江戸図屏風』の読み解きを通して、近世の社会の変化とその原因について、予想したり考察したりする。第4章で追究する学習課題を把握し、課題解決のためにどのような学習が必要か見通しをもつ。

《本時の展開例》

	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材
導入 (5分)	● 小学校で学習した人物の中で、この時代に登場する人物を想起させる。 ● p.95 下「これから学習する時代」を見て、「近世」と呼ばれる時代区分の年代を把握させる。	・ 第4章を一通り確認させ、小学校で登場した人物を探させる。 ・ 室町時代や戦国時代、安土桃山時代の移り変わりの後、江戸時代が長く続いていることに着目させる。	・ デジタル教科書で、年表をスクリーンに提示する。
展開 (35分)	【単元を見通す問い】 平安時代以降の武家政治では、次々と権力が交代したにもかかわらず、なぜ江戸幕府は長い間政権を保ち続けられたのだろうか。 ● pp.96-97 の資料「江戸のまち」から、気づくことを自由にあげさせる。 ● 中世の社会から変化したことについて、 ① 幕府政治 ② 外国との関係 ③ 産業や交通 ④ 人々の生活 の四つの観点からまとめさせる。 ● 生徒を4人指名し、観点ごとに読み取った事柄を発表させる。		
まとめ (10分)	● 単元を通した問いに対する、この時点での考えを、振り返りシートに記入させる。	・ 四つの観点の中で、最も江戸幕府の発展の要因となったものはどれか、考えさせる。	

◆指導にあたって：

○本単元は、学習指導要領（歴史的分野）大項目 B 中項目(3)「近世の日本」の導入にあたる。

現行の学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、単元や題材などの内容的・時間的なまとまりの中で、学習を見通し振り返る場面の計画的な設定が求められている。また、各時代を大観し、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現することも求められている。

以上のことを踏まえ、本指導案では、「中世から近世への社会の変化を、『江戸図屏風』を題材として生徒に見つけ出させること」、「この中項目（章）を貫く課題について、これからどのような視点で学習を進めていくか、見通しをもたせること」をねらいとしている。

○課題を追究する上で欠かせない「見方・考え方」をより深く育むために、デジタル教科書をはじめとするデジタル教材の活用が有効であると考え。本時では、まず p.95 下の「これから学習する時代」を用いて「近世」という時代区分の年代を確認させ、p.95 の資料をもとに、前の時代との類似や差異を予測・考察させる。本単元は第 2 学年の後半に取り扱うことが多い。発達段階も踏まえ、教科書の文章や資料から予想の根拠を挙げさせたり、因果関係についてより深く説明させたりする活動も考えたい。

◆デジタル教科書活用のねらい：

○章の扉のページには、必ず年表「これから学習する時代」が示されている。デジタル教科書では、この部分が拡大できるようになっている。歴史的分野で最も重要な「どの年代のできごとか」ということを把握させるために、授業の最初に提示したい。単元を見通す問いにも関わる、「江戸時代が 265 年の間続いた」という事実についても、視覚的な理解を助けることが期待できる。

デジタル教科書 p.95 →
「これから学習する時代」

年代	1500	1600	1700	1800	1850
日本	室町時代 戦国時代	安土・ 桃山時代	江戸時代		
中国	明		清		
朝鮮	朝鮮				

○『江戸図屏風』は、17 世紀前半の江戸時代の街並みや人々の生活の様子が描かれた資料である。デジタル教科書では、特に注目させたいポイントを拡大して提示することができる。生徒が社会の変化について発表する際にスクリーンに提示することで、どの点に着目したかを全体で共有しやすくすることができる。

デジタル教科書 p.96 →
「江戸のまち」



◆授業でさらに活用するポイント：

○『江戸図屏風』から読み取った事柄がどのような歴史的現象と関わっているか、第 4 章の文章の記述やさまざまな資料を根拠として、生徒に説明させることもできると考える。生徒が根拠とした資料をスクリーンに提示することで、発表の質を高めることが期待される。

○多角的な考察を促すために、社会の変化が幕府、武士、庶民のそれぞれの立場にどのような影響を与えたかを、立場ごとに考察させることも考えられる。

◆**単元名**：第7章 現代の日本と世界 1節 日本の民主化と冷戦

「③ 冷たい戦争の始まり」(教科書 pp.260-261)

◆**本時の目標**：

第二次大戦の反省から新たに国際連合が発足した一方で、米ソの対立から東西陣営の冷戦が生じたことや、朝鮮戦争、中華人民共和国の成立などの世界の動きを理解する。国際連合の役割、東西陣営の対立と代理戦争等の事象について、現代の国際情勢との関わりという視点から考察する。

《本時の展開例》

	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材
導入 (10分)	●二つの資料を提示する。 ①2022 年に日本が国際連合の安全保障理事会の非常任理事国に選出された際の新聞記事 ②東西冷戦に関する動画 (p.260・2)	・安保理における常任理事国と非常任理事国の違いにふれるとともに、第二次世界大戦後、新たな対立が発生していることをとらえさせる。	・スクリーンで動画を再生する。
展開 (35分)	【本時の問い】第二次大戦後の国際社会の課題や、現在の国際社会との関わりはどのようなものだろうか。		
	●国際連合の仕組み、東西陣営の対立の構図、中華人民共和国の成立について知る。 ●冷戦下において、朝鮮戦争、ベトナム戦争等、さまざまな戦争が起こったことを知る。 ●第二次大戦後の世界について、以下の2点について考察する。 ①平和な世界を実現する上で課題となったこと ②現在の国際社会の動きと関連していること	・ p.260・1で、北大西洋条約機構とワルシャワ条約機構の地理的な広がりを示す。 ・ これまで安保理で拒否権が行使された回数の資料を提示する。 ・ p.264 の内容も関連づけ、冷戦下の対立をとらえさせる。 ・ 第二次大戦の反省から国際連合が発足したものの、東西陣営の対立と代理戦争が起こったこと、軍事同盟の存在や常任理事国の強大な権限が、現在の国際社会にも大きな影響を与えていることに気づかせる。	・ スクリーンに p.260・1を提示する ・ スクリーンで p.264・1の動画を再生する。
まとめ (5分)	●学習をまとめ、本時の問いへの振り返りを行う。	・ 現在の国際情勢とのつながりを意識して記述するよう促す。	

◆指導にあたって：

○本単元は、国際連合の発足や米ソ両陣営の対立、アジア諸国の独立や朝鮮戦争、その後の平和共存の動きなどを、日本の動きと関連させながら扱うことをねらいとしている。その中でも本時では、北大西洋条約機構、安全保障理事会等、生徒がニュースでも耳にする事象も取り上げられている。その位置的な広がりや歴史的な経緯について、デジタル教科書を有効に活用しつつ、現在とのつながりという観点からとらえさせることを目的としている。

○歴史的分野も大詰めにさしかかる本単元では、ここまで学んできたことと自分たちとのつながりや、現在と未来の日本と世界の在り方について、課題意識をもって考察、構想することが求められている。国際連合の役割が大きく取り沙汰されている昨今の状況の中で、その仕組みと課題について、歴史的な側面のみならず、現在の国際情勢と関連づけて考察することは、歴史的分野の学習を通して現代社会について考えるために非常に重要であろう。本時の学習を、現在、そして将来の世界の姿の構想に繋げるためのステップとしたい。

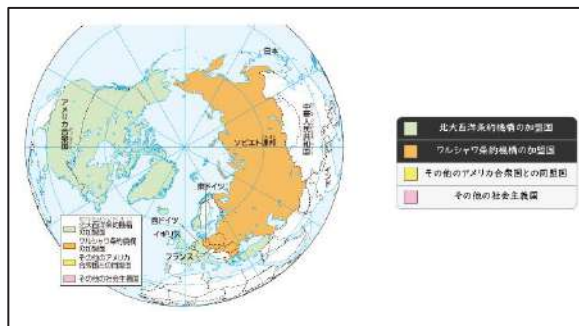
◆デジタル教科書活用のねらい：

○授業の序盤では、p.260・**1**を拡大して提示する。

東西両陣営の軍事同盟やその他の勢力について、凡例ごとに表示することが可能であるため、それぞれの位置的な広がりについて具体的にイメージをもたせることができると考えられる。

デジタル教科書 p.260 →

1東西陣営の対立



○東西ドイツの分裂の様子やベトナム戦争の展開については、デジタル教科書の動画コンテンツ（p.260、264 の動画リンク）を利用する。生徒の視覚的な理解を助けるとともに、必要な情報が短時間でまとめられているため、授業後半の考察に充てる時間を確保するために有効であろう。

デジタル教科書 p.264 の動画リンク →



◆授業でさらに活用するポイント：

○国際連合発足後に起こった出来事について、教科書 p.286 の年表資料を基に生徒自身にまとめさせることも考えられる。漠然と平和なイメージでとらえがちな第二次世界大戦終結以後も、さまざまな戦争、対立が存在することを視覚的に実感できるのではないだろうか。

デジタル教科書 p.286 の年表資料 →



○本時の授業で考察した内容をもとに、歴史的分野の学習のまとめとして、現在と未来の日本や世界の在り方について考察・構想を行うこともできる。その際、国連などの国際機関、日本政府、そして我々一人一人という多角的な視点から、平和で民主的な社会形成のための方策を考察することが考えられる。

◆**単元名**：第6章 国際社会に生きる私たち 2節 国際社会が抱える課題と私たち

「① 終わらない地域紛争」(教科書 pp.208-209)

◆**本時の目標**：

地域紛争やテロリズムなどにより人々が国外へ逃れる背景と、難民生活にどのような困難が伴うかを理解し、受け入れ国でも難民の人々が尊厳を守りながら地元住民との対立を乗り越え、共生していくための手立てに関する考察を通じて、地域紛争がもたらす難民問題への理解を深める。

《**本時の展開例**》

	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材
導入 (5分)	【問】東京オリンピックの開会式で難民選手団が最初に入場したが、難民とはどのような人々をいうのだろう。また、難民選手団の出身国はどこが多いだろう。	・難民選手団の中で、特にシリアやアフガニスタンからの選手が多いことに着目し、デジタル教科書の地図と関連づける。	・入場行進の写真と選手団の名前、出身国、p.209・[5]「難民の出身国・地域別人数」を順次、スクリーンに映し出す。
展開 (35分)	●冷戦後も多くの地域紛争が発生し、それに伴って多くの難民が発生していることを理解する。 ●難民保護のための国際的な枠組み(難民の地位に関する条約／UNHCR など)を確認する。 【問】難民キャンプにはどのような課題があるか、班ごとに調査項目を二つ選び、調査しよう。 《調査項目例(八つ)》 食料/衛生/水/医療/教育/子ども/女性/地元住民との関係 など ●共同編集ができるアプリ等を用いて、調べた内容をまとめ、班員同士で課題を共有する。	・歴史の学習と関連づけて、歴史的な経緯が現在にも影響していることに着目させたい。 ・p.70・[3]「難民の地位に関する条約」(1951年)をふり返り、各国によるその適用を監督する任務が、UNHCRにあることを確認する。 ・八つの調査項目例から、難民は、出身国での武力紛争や人権侵害の危険から逃れた後も、生活基盤や社会的なインフラが不十分な場所で暮らすことになるため、さまざまな困難に直面することに気づかせたい。 ・難民の増加と長期化は、受け入れ国にも経済的な負担となり、地元住民との対立や排斥運動につながるケースがあることに着目させたい。	・p.208・[1]「内戦による空爆を受けて逃げる人々」、[4]「アフリカの主な地域紛争」を順次、スクリーンに映し出す。 ・配布端末等を活用し、UNHCRやJICA等のサイトから、難民キャンプが抱える課題について調べる。 ・p.209・[6]「世界の難民数の推移」をスクリーンに映し出す。 ・各班で配布端末等を活用して、班で調べた内容をまとめる。 *GoogleやMicrosoftなどのアプリ等を、適宜ご活用・ご併用ください。
まとめ (10分)	【問】受け入れ国で難民の尊厳を守りながら、地元住民と共生していくためには、どのような手立てが必要だろうか。	・難民と受け入れ国、支援者の立場の違いを考慮しながら、多面的・多角的に考察させたい。	・班ごとに端末を活用して意見交換を行い、班で考察した内容をまとめる。

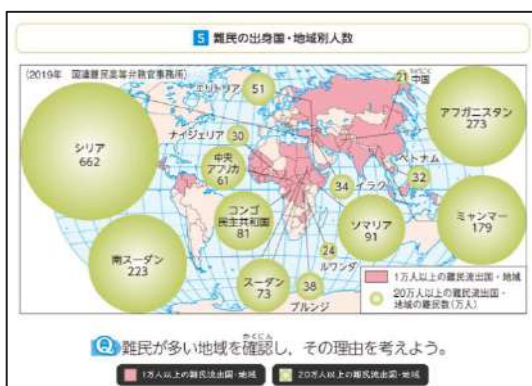
◆指導にあたって：

- 2021年に「東京 2020 オリンピック競技大会」が日本で開催された際、開会式で難民選手団が最初に入場して注目を集めた。その一方で、西アジアではシリア内戦に収束の兆しが見られず、アフガニスタンでは政治情勢の変化によって、多くの難民が発生する事態となっている。授業の導入では、最新の国際情勢の状況や変化を紹介しながら、生徒の関心を高めていきたい。
- 本時の展開では、調べ学習によって難民キャンプで暮らす人々の現状を理解するとともに、難民発生国の隣国であるために、数百万人単位の難民を受け入れるトルコやレバノン、ウガンダなどの国々の負担にも着目させたい。長期間の難民の受け入れを行う国では、地元住民との対立や社会不安が広がり、ドイツでも百万人以上の難民を受け入れてきた反動から排斥運動が発生した。難民発生の根本的な解決策が見いだせない中、長期化する難民の受け入れと、地元住民との共生をどうしたら図れるのか。国際社会や地域社会の視点から、紛争や難民の問題について多面的・多角的に考察させたい。

◆デジタル教科書活用のねらい：

- デジタル教科書 p.209・[5]「難民の出身国・地域別人数」と「東京 2020 オリンピック競技大会」に出場した「難民選手団」の出身国の情報を関連づける事で、生徒がふれたことのある情報をもとに理解を深めていくことをねらいとした。難民選手団の出身国はIOCのサイトから得ることができ、シリアやアフガニスタン、南スーダンの出身が多い。この情報と、デジタル教科書の主題図や写真と関連づけることで、難民となった人々の背景に迫りながら授業を展開していきたい。

【発問】「オリンピックの難民選手団の出身国と、地図中の情報を比較してみよう」



◆授業でさらに活用するポイント：

- デジタル教科書 p.209・[6]「世界の難民数の推移」から、難民の数が急激に増加していることがわかる。本時の展開では、難民キャンプの現状について理解を深めるために、教科書のグラフと UNHCR や JICA のサイトの情報を関連づけて考察させようと試みた。UNHCR のサイトには難民の現状について伝える動画もあるため、活用することでより理解を深めることができる。UNHCR によれば、2020年の難民数は約 2500 万人、国内避難民や庇護希望者等を加えると約 8240 万人に達する。世界の約 78 億人のうち、8000 万人以上の人々が迫害やその恐れによって故郷を追われている現状を理解させ、深刻さに迫りたい。



↑ UNHCR 日本サイト「数字で見る難民情勢」
(https://www.unhcr.org/jp/global_trends_2020) より

◆**単元名**：第6章 国際社会に生きる私たち 2節 国際社会が抱える課題と私たち

「④なくてはならない食糧と水」(教科書 pp.214-215)

◆**本時の目標**：

人間の安全保障の実現はなぜ困難に直面し、貧困や飢餓、栄養不足人口の増加を招くのだろうか。多様な発生要因とその関連性を考察しながら、国際社会が直面する課題を深く理解する。

《本時の展開例》

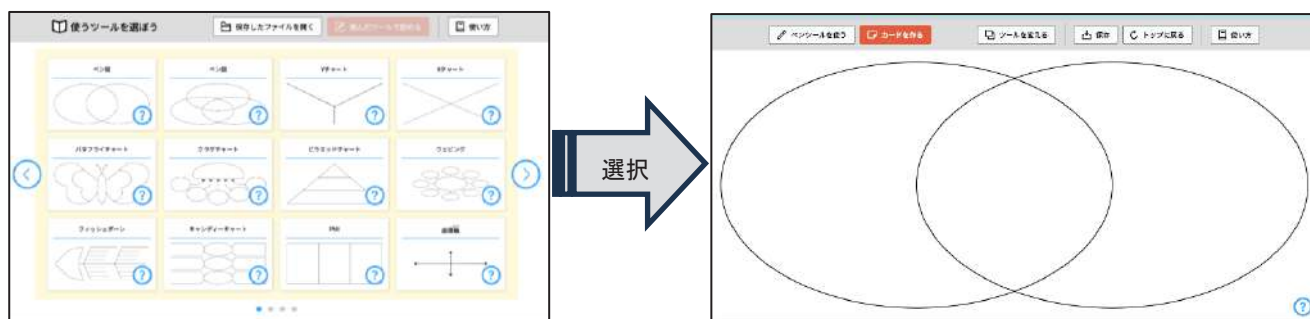
	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材				
導入 (5分)	●p.214・ 3 「世界の飢餓状況を示すハンガーマップ」を観察し、栄養不足人口の割合が高い国を確認する。	・ハンガーマップは、階級値別に表示できる。特に 25%以上の国や「データなし」の国に着目させる。	・電子黒板に p.214・ 3 「世界の飢餓状況を示すハンガーマップ」を拡大表示。				
展開 (40分)	【問】「人間の安全保障」とは、紛争や暴力以外のどのような脅威から人間を守る考え方だっただろうか。 (1) 協働学習 (情報整理) 【問】なぜ、人間の安全が脅かされるのだろうか。「動画」を見てその要因をあげ、以下の二つの視点で「ベン図」に整理してみよう。 ●動画視聴「世界の饑餓」2：29 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"><tr><td style="width: 50%; padding: 5px;">①自然的な要因</td><td style="width: 50%; padding: 5px;">②人為的な要因</td></tr><tr><td style="padding: 5px;">洪水・干ばつ・地震等の自然災害・気候変動の影響</td><td style="padding: 5px;">紛争・貧困・学校に通えない・食糧価格の変動</td></tr></table>  (2) 協働学習 (要因考察) (1)の成果を写真に撮影して保存。付箋ははがして、(2)の協働学習で使用。 【問】それぞれの要因はどのように「関連」し合っているだろうか。 ●A3用紙2枚分のサイズの紙に付箋を配置して、「関連図」を作成する。 【問】人間の安全保障のために、国連はどのような取り組みをしているのだろうか。	①自然的な要因	②人為的な要因	洪水・干ばつ・地震等の自然災害・気候変動の影響	紛争・貧困・学校に通えない・食糧価格の変動	・p.212を参照しながら、前時の振り返りを行う。 ・3～4人グループ(9グループ)を構成し、各グループに、ベン図が書かれたA3の用紙と付箋を配布する。Google Jamboardでも可。 ・ベン図の二つの○が交差する中央の部分に「人間の安全への脅威(栄養失調や飢餓)」、左右に①、②の視点を書き、その要因を整理させる。 ・動画の視聴後、p.212の本文も参考に、感染症、人権侵害、p.215の水不足や汚染、水の過剰利用、などもベン図に追加する。 ・関連図を作成する過程で、諸要因がどのように関連し合うのか、グループで話し合いながら諸要因を線でつなげていく。「関連図」でなぜ結びつけたのか、その理由を話し合い、書き込んでいく。	・デジタル教科書の「思考ツール」から、ベン図を選択→「選んだツールで使い始める」→「画像で保存」。予め Google Jamboardの背景に設定し、各班の代表に Classroom を通じて、ひな形を配布してもよい。(A3用紙の代用として使用。) ・デジタル教科書の思考ツールは、個人でも取り組めるように作られているため、(1)を個人で行ったのち、(2)のパートに移行していくことも可能。生徒の力量を見て、取り組みの手法を変えてもよい。 ・動画：「世界の饑餓」視聴において、再生速度を「おそい」に設定すると再生時間が延びてしまうが、生徒がじっくりと聞き取りながらメモを取れるという点では有用である。必要な部分が視聴できたら、再生速度を早めてもよいだろう。
①自然的な要因	②人為的な要因						
洪水・干ばつ・地震等の自然災害・気候変動の影響	紛争・貧困・学校に通えない・食糧価格の変動						
まとめ (5分)	【問】「人間の安全保障」の実現はなぜ難しいのか、学習の成果を振り返りながらまとめてみよう。	・Classroom から Google フォームで課題を配信する。					

◆指導にあたって：

- 本時で取り扱う貧困や飢餓、食糧問題や水不足などは、いずれも人為的要因と自然的要因が絡み合い、その淵源は極めて複雑である。特にサブサハラ・アフリカでは、干ばつと水不足による農業不振に加え、民兵や傭兵、テロ組織が割拠し「国家の安全保障」そのものが危機に瀕していて、人道上的危機が「人間の安全保障」を脅かしている。アフリカ諸国は、1960年代に脱植民地化から主権国家体制を築くも、その領域に暮らす「国民」の実態は多様な民族・部族で構成され、国民統合と国内統治を困難にさせた。紛争や内戦が多発する構造的要因をつくったのは、アフリカ分割統治の境界線を引き継いだ「国境線」であることは言うまでもない。この意味から、本時の内容は第6章2節①～③と密接に関連しており、指導の中で「国際社会が抱える課題」を深く理解させたい。
- アフリカ諸国の主権国家の枠組みと、不十分な社会保障制度と財政、脆弱な経済状況の間隙は、新植民地主義を招き、インフラ投資で過剰債務を背負った政府は財政的苦境を加速させ、援助供与国への依存を強めた。ウクライナ問題をめぐって分断が深まる国際社会で、国連総会の票田として支持固めのために、大国がアフリカ歴訪を展開しては、盟約を取り付けている。アフリカ州をはじめとする、貧困にあえぐ地域に必要なのは、一時の友好関係や援助ではなく、持続可能な開発を根拠とした「人間の安全保障」の実現である。第6章の冒頭にある「世代内の公平」や「自然と人間の調和」などの実現に向けて、国際社会への関心を高めながら、生徒に深く考察させたい。

◆デジタル教科書活用のねらい：

- 「動画」(p.214〈世界の飢餓〉)を使用し、本時の学習の主たる学習資料として活用する。
- デジタル教科書の「思考ツール」を用い、「人為的要因」と「自然的要因」の整理に活用する。



↑ デジタル教科書中の「思考ツール」画面 (左) と「ベン図」(右)



↑ (1) 協働学習の例：「ベン図」

↑ (2) 協働学習の例：「相関図」

◆授業でさらに活用するポイント：

- 本時の展開は、授業を2コマに増やし、発表や情報交換の時間を十分に確保することで、さらに生徒の考察を深める事ができる。また、生徒がまとめた「相関図」は、工夫した点や構図を9グループの生徒同士が互いに確認し合うことで、多様な見方や考え方・思考の「違い」に触れることができる。



「中学校社会サイト」のお知らせ

教育出版ウェブサイトの「中学校社会サイト」では、さまざまな新コーナー、新コンテンツを掲載しています。ぜひご覧いただき、ご活用ください。

ウェブサイト



① 『「学習のまとめと表現」ワークシート』を追加！

各分野の単元末に掲載した、「学習のまとめと表現」ページ用のワークシートを作成しました。ワークシートに生徒が書き込むことで、知識の定着を確実に図ることができ、定期テストのための学習などにも活用することができます。右下の二次元コードから、解答も併せて確認することができます。他の学習資料とともに、どうぞご活用ください。

←地理 第2編 第2章 2「ヨーロッパ州」

学習のまとめと表現 ヨーロッパ州の学習を振り返って整理しよう
教科書対応ページ p.81 参照するページ p.89

②地図を使って確かめよう。

①地図中の [] にあてはまる地名を答えよう。

①	半島	②	
③	山脈	④	
⑤	海	⑥	

→歴史 第5章
「日本の近代化と国際社会」

学習のまとめと表現 第6章の学習を振り返って整理しよう
教科書 p.224～226

2 STEP 資料を活用して、次の問いに答えよう。

①【テーマ】

②「政府」「企業」「民間組織」「学生」

③

④

⑤

↑公民 第6章
「国際社会に生きる私たち」

解答例

学習のまとめと表現 ～第5章 日本の近代化と国際社会～
教科書 p.204～206

① 近代の時代の移り変わりを確かめよう。

① 人権	② ベリー	③ 日米修好通商
④ 専制君主	⑤ 戊辰	⑥ 文明
⑦ 自由民権	⑧ 植民地	⑨ 日清
⑩ 義和団		

②

坂本龍馬	薩長同盟	大政奉還、江戸幕府の滅亡
------	------	--------------



②『ニッポン全国 社会科フォトまっぴんぐ』を掲載！

社会科の授業の中で活用できる写真を掲載し、広く皆さまにご利用いただくことを目的として、小・中の共通サイトとしてスタートしました。おかげさまで、現在約 230 点の全国から送られた写真が掲載されています。全国の「自然」「建物」「乗り物」「風景」など、さまざまなジャンルの写真を現在も募集しています。これまでに撮りためた写真や、新たに撮影された写真の中から、授業での活用が想定できるものをぜひご提供ください。ご応募をお待ちしています。



③『バーチャル社会科見学に行こう！』を掲載！

『バーチャル社会科見学に行こう！』を「授業に役立つリンク集」に追加しています。ここでは、インターネット上に公開されている、さまざまな「3Dコンテンツ」を集めて紹介しています。自宅や学校からでも、バーチャルに社会科見学が体験できるリンク集です。ご活用ください。

まっぴんぐま
＼ からのお知らせ！ ／



フォトまっぴんぐサイトへの
投稿をお待ちしています！

ご応募はこちらから→



今後も役立つ情報をお届けしていきます。
ぜひご注目ください！



教育出版
中学校社会の
ウェブサイト！

 教育出版株式会社

〒135-0063 東京都江東区有明 3-4-10 TFT ビル西館 TEL:03-5579-6278 (代表)



本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」にのっとり、配布を許可されているものです。

BC-09